

松  
上

菊  
189  
15

舊  
回  
記

享  
保  
三

拾  
六

富山大学  
菊池文書

577



享保三戊戌年

Handwritten text in blue ink, possibly bleed-through from the reverse side of the paper. The text is partially obscured by a large brown stain and is difficult to decipher, but appears to contain several lines of characters.



孝子保三戊戌年

一 金次郎如奉公人 沛那割前幕更人 可取中身木

一 三信村方印 德也村 又在島 不支能之 又小

一 嘉例合村 振使男 是信 是也 相之 仕 后 忠 云 後

一 三信村方印 德也村 又在島 不支能之 又小

一 沈向兼 振費人 亦下 与 余 人 部 以 後 亦 停 止 之 也 也 又

一 嘉分 新 案 就 男 亦 下 与 余 人 部 以 後 亦 停 止 之 也 也 又



一 佛名之安法...  
一 佛名之安法...  
一 佛名之安法...

一 依後仲島...  
一 依後仲島...  
一 依後仲島...

一 水不足...  
一 水不足...  
一 水不足...

一 舟戶出...  
一 舟戶出...  
一 舟戶出...

一 用水...  
一 用水...  
一 用水...

一 三清村...  
一 三清村...  
一 三清村...

一 戶書...  
一 戶書...  
一 戶書...

一 性道...  
一 性道...  
一 性道...

一 定教...  
一 定教...  
一 定教...

一 中地...  
一 中地...  
一 中地...

一 小立...  
一 小立...  
一 小立...

一 出家...  
一 出家...  
一 出家...

一 加...  
一 加...  
一 加...



公義少年反并公より同く兼て道書も兼て通

一 佛拂徳代治を徳より拾ひ又或からんは或分ハ官位に成

与一し一なり

一 貝塚と山平上宗好通

一 龍子山多進高持不仕不仕と名をいふは并に兼て

一 三徳村と印徳代反り此一と水後と云

一 一併銅穴と子皇人多く徳に之を由る

一 徳宗堂と其名を考ふるは平世と云はれ

一 新金銀通用乾字金通用は偽造と云はれ

一 海原守様御用銀と云はれ

一 一併山偽造及之名を考ふるは平世と云はれ

一 一併田畑中右邊及中景用場と云はれ

一 一併教源は及之大概の乾字及之平世と云はれ

一 一併偽造五枚及之定換代等と云はれ



一金は所用と為す我々の人所用漏れずと為す此中

我々の財に事ありて仕る者ありては仕る者ありては

之御長

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

當春御深用場所此化御事外は此後御事外は  
此中御奉公之に交り方は後此配當と成り外は御人  
數御事外は此の後此の御別割御事外は御事外は  
各御事外は此の御事外は御事外は御事外は  
奉公人割御事外は御事外は

一百人

九人

拾五人

七人

人報

能事報

石川報

河内報



拾壹

拾三

拾七

七

七

五

或

或

砥波歌

村水歌

影月歌

羽含歌

麻語歌

風至歌

珠例歌

二月廿二日

右邊の紙は下へ

造番中田村

七郎

香氏

甲

世生 本庄 大橋 苗裔 三清 大西

田中 之 中田

御歌の古書甚多し一平奉公之先達と割符の歌事記

色を通じ然新古今事記之七律所記古書歌之与古人

平之者ハ拾波歌也其書云云為及不亦歌也其書云云



芝根のりあつた方を印後と称す所は新とて之を大印と  
地を法人の名に申すもの程を答へし月より水に目詰番  
申中法其言法改化所法中上丈六加筋能弱之分ハ  
法形以等形所も之を法形と十村中一法又申す七  
定より水に目詰人の形り申す能者之教之分言云  
お勤り根に仕業と云へば此法者地より申す能く孔観  
リヤ一形中言尾と申す有左根に之を法と云へば此  
法形所も能弱加筋に分と云へば此法中上丈六分中  
に申す出た所と申す所は此法形所も申す云々

持持法法係と云へば此法形所上

二月廿六日

法善中(四)村

七所三所

善代 伊 之 泉

仲 官 中 一 家 所

孫波形二法村と云ふ所死出法より法形所申す所  
支能て方一中申す所上

三月廿六日

法形所申す所

法善中(四)村



嘉創谷村火事出来り也也免焼死中分及家  
のりり為接使是地多之 地を以て西に長此の  
去るより上

三月廿八日

加藤村大井  
松原松右馬

大原村大井馬  
大原村大井馬

砥波部三清村古部我其有流能也各分交能  
三月廿二日

享保三

加藤村  
又右邊

砥波部三清村古部我其有流能也各分交能  
花能也其有流能也各分交能也其有流能也  
遂事也其有流能也

戊 三月廿六日

享保三

加藤村  
田中村  
賞古馬



賞

一 油臼并推炭爲賞 清米本及人右商賣不仕身下爲余人の仕度  
至十石也者之由以又由推炭由停止仕度且又油臼爲近仕  
振動之由又由停止仕度

戸出村 又右邊

苗崎村 之右邊

松本町 坐右邊

村上町 古印八

一 長船楫船綱及魚籠爲賞 而油及銀十石下爲余人の賞

借仕度由停止仕度且又由推炭由停止仕度

右代及由仕度由停止仕度且又由推炭由停止仕度

一 下爲不仕度由停止仕度且又由推炭由停止仕度

由目又仕度由推炭由仕度且又由推炭由仕度

成り身又仕度由推炭由仕度且又由推炭由仕度

享保三

四月來

田中村 賞右邊

三浦村 又右邊

金尾村 賞右邊

長尾邊



源之次郎 么右衛門 加藤清次 佐右衛門  
右左衛門

戸部 四甲  
氏中

享保三年六月庚午。源場高々村源太夫根部後。新築し  
て。家系分十村分あり。右根部。其得。新築。先。後。お。急。を。急。平。新。所  
破。り。新。築。預。書。付。數。通。前。の。為。先。何。し。お。急。と。お。急。身。當。  
源。部。家。系。分。十。村。分。後。の。十。後。部。と。十。之。交。長。根。の。後。分。は。源。と。

三ノ村分右衛門

因。東。右。之。源。場。と。し。村。源。太。夫。根。部。新。築。開。の。交。右。之。源。の。後。  
中。之。源。後。と。し。當。其。十。七。の。と。源。後。の。村。分。十。後。と。し。當。十。分。  
源。の。身。先。進。の。仲。留。一。旦。休。仕。以。て。十。八。日。書。付。松。持。氏。  
及。十。之。六。月。朔。日。松。本。七。後。所。の。新。築。十。後。別。太。之。源。後。  
大。上。之。受。入。仲。留。而。官。子。但。源。根。目。源。持。合。の。由。  
あらぬ

一 當年他元草生。為例。年。月。之。時。節。之。意。を。お。急。と。急。

之。源。也。











多し振三の位を能く治後形中より彼死に治すに中村  
實右衛門新右衛門用水や坪社を覚た邊方に用水や坪入  
り坪我田在りしを治し及一なる中より坪はとく坪持持へはとく  
入我田多しなるも用水や坪に及り及一中候用及や坪この位  
く急成及りり敷り坪及くは不足り候と申す水言下をと振  
の位を治後形より坪持持し一なる内水不足り金治述  
我坪多し中より治後年中視中同月より中野村なる中村  
三右衛門用水や坪入我田在りしを治す中候は是しより同  
事の上より中候及りり中村の位を治す一なる内水不足り金治述

中の上

戸老村  
大右衛門

右三右衛門村より代り十村に  
竹中、桑の位を治すこと上  
保海郡三右衛門村  
大右衛門

七月 未六日  
吉保三

中村 實右衛門  
三右衛門 大右衛門



八月末首の如く風多し仕定む

一同釣魚の如く仕出 神の如く湯の花拾上中一日絶中打

小瀬の如く 宗の如く 拾上中一日絶中打

さうなるといふ 布上下拾上中の如く

一 神を用紙造るに絶て仕定むの如く

一 絶て絶て十日限ハ 常中六日の如く 中一日

大和中 野村在定り志と

八月十日

言字保三

中絶仕定む

前仕定むに如く 絶て仕定む 會所ハ 常中仕定む 又ハ 中一日

来り仕定むに如く 仕定む

大和中 年中 仕定む 又ハ 中一日 仕定む

仕定むに如く 仕定む 仕定む 仕定む 仕定む

仕定むに如く 仕定む 仕定む 仕定む 仕定む

仕定むに如く

八月末二

言字保

仕定む

十打中



右津成重辰... 山崎山崎

一石... 山崎山崎

一犬... 山崎山崎

山崎山崎... 山崎山崎

書... 山崎山崎

一犬... 山崎山崎

一山... 山崎山崎

山崎山崎... 山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

右... 山崎山崎

右... 山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎



上書

享保三年

仙那定小成限去書云云之書事上中儀

八月

大文何部何村

誰

何村

村中下者云云

一何右何移月

何役

右月

一何右何移月

何役

一何右何移月

何役

村中下... 仙那定... 仙那定小成限去書云云之書事上中儀

仙那定... 仙那定小成限去書云云之書事上中儀

仙那定... 仙那定小成限去書云云之書事上中儀

仙那定... 仙那定小成限去書云云之書事上中儀

一何右何移月

何役

村中下... 仙那定... 仙那定小成限去書云云之書事上中儀

仙那定... 仙那定小成限去書云云之書事上中儀

一何右

何役

村中下... 仙那定... 仙那定小成限去書云云之書事上中儀

一何移月

何役

一何移何月

何役

村中下... 仙那定... 仙那定小成限去書云云之書事上中儀

何役







場中收手後何年 志年性而拾上五五午

一何拾何年

何役

村中平年何年 志年性而拾上五五午

何役

一何年

村中平年何年 志年性而拾上五五午

何役

一何拾何年

村中平年何年 志年性而拾上五五午

何役

一何拾何年

何役

村中平年何年 志年性而拾上五五午

右何拾何年 志年性而拾上五五午

享保三年八月

何村 誰

何村 誰

何村 誰

小書限在志年性而拾上五五午

三拾何年

改此年

八月

諸部

十村中

右何拾何年 志年性而拾上五五午

三和之志年性而拾上五五午















六村源左史 官昌推去之

大福海老文 大福所用 山東民在也

日 弟田色角

塩川 安右兵衛

右通家化出在為中々中來り其方は刻成下體之出厚方  
それ成向之取古遠之振未守而福即國之月松本振守振  
可信以上

宗保二年三月廿二日

孫傳彩中北村中圖書

小倉島

塩川 安右兵衛

一 此六日己酉八時小立野火聲其來信室障寺小西方より松山

屋敷の火仕天徳院の西より松山寺堂に燒

中務候迄迄助候も御朱田井ノ天神下より留中にて

其節南風強ク吹所申大さき事馬込候二時許より家敷

百七拾刻程燒失り中々力成り少くも也候上

四月廿

法善寺生傳在邊

弟氏 伊之海

中書不辨宛所



六村源太史 官昌推共之

大指油老文 大指所用 山東民表也

日 弟田色角

培川 安在對換

右三通家化所安為中中來其方其則或下能久在後方  
其此或向之山古遠之極未守白備即國之日松年換中極  
可作仍上

字保二章三月廿下

孫保彰中世村中國番

小之海

培川 安在為中

一此六日為八時小三點大車其來作室障寺小峰方之核山  
飛張換下屋及公也火仕天德院二而加達之手堂也獲中  
如東寺樓朱計之孔教意寺樓朱且將可令力所也過中其村  
中務務院院能助換也德朱田井ノ天神山為留中中  
甚昂南風強吹所申大子之事焉以作一財計之而家數  
一可七換列能德矣之十力力所也中中仍上

四月廿

法善社生信齋

弟氏 伊之海

中宵不換宛所



け前より奉云人頼又ハ洗濯障子十之五居在好式ハ志久  
の者方にたよりハ其者申出申すハ右之様之者申支配所の方  
より申出振子申す所申す人ハ右之様之者申支配所の方ハ  
振別ハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
之ハ申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ

甲子十二月

御用場

加茂丸部太郎及 松原右衛門

右之様申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ  
申出申すハ右之様之者申出申すハ右之様之者申支配所の方ハ

戊子二月六日

加茂丸部太郎

松原右衛門



大白石村三郎重 下条村三郎重 北野村甚太郎  
下野村七郎重 二十里村左右重 加納村左右重  
仙生寺村平四郎 田中村道重 性生村佑重  
戸島村又右重 金屋左江村右重 大瀧村大太郎  
苗崎村大太郎 大西村加右重 中田村源六

中津美右三郎重 二七日前中津守老より書成の上

四月朔日

小條新太郎

大久保下野守

松平加賀守友

為右左

賞

加賀國

松平加賀守より書成

越中

能登

花弾

越前

松平國より見當三の哉山より加賀守より何と云ふ



何玉何子山相見との事書付也この事加加多國  
と他山と境の平用は他領と他領との境もお兼人  
當の村に下るを二ヶ所分他國に所成を名も二ヶ  
と勿論之義は言上所成を見り多し不苦且亦又後  
之旨より多し遠中不難能り得んを言ひて武三聖経  
言及不苦下

幾中一か

能登

飛彈

裁後

右三ヶ國の内見當この裁山方より書付之紙右

同紙

以上

四月

右大久保山郷守殿山條新長為殿が所達をり有  
わりの古村前山郷守殿迄免とこの所成を以て新  
正に成代而所成より為命各長白河田源次  
新長為殿と上成のり日新長山郷守殿より成代











一 以方領國之山と名を知らず其れ他國之山と名を以て可なり及  
 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る官製  
 於何國之山と中程をも程を中程に改め書札格を中程に有る  
 承領中程之山と名を改め此の山に官製格を中程に有る  
 國領と中程は何の用と書相欠中程に改め何と書之山と中  
 傳り此大領所より相領所を名も其方領格と書札中程に  
 此方領所之山と名を改め此の山に官製格を中程に有る  
 為又此中程之山と名を改め此の山に官製格を中程に有る  
 格新格書札格に改め此の山に官製格を中程に有る

爲十道に交成程右に承領之山と名を以て可なり  
 一 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る  
 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る  
 一 右中程之山と名を改め此の山に官製格を中程に有る  
 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る  
 一 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る  
 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る  
 一 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る  
 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る  
 一 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る  
 承領此の方領所より大領を改め書札格を中程に有る







前田直正字根 前田直正字根  
奥村伊藤字根 奥村伊藤字根  
奥村内記字根 奥村内記字根  
赤田神記字根 赤田神記字根  
成派内花柳字根 成派内花柳字根

四月廿四

横山監物

今御賜書中 加別諸番中 御所他所 御所今般江戸  
表御守書中 大御公義我様 御所加別 御所書























山一峰了る自通に當り不若に據る者何方の山か  
何國に山尺二十とす所可至るを中野山と云ひ揚きぬ  
此書の中程を尋ねて見ると此山は其山の谷廻りて  
自に山好む所なり其山は其山の谷廻りて其書を  
自に山好む所なり其山は其山の谷廻りて其書を

日月の記

佐長仲た其

堀 塚 在 邊

藤波新討水記

わう村語を文

卯橋村の村中

右先達の中世に他國化領尺五山に八段段向中より皆  
仕をす中即我に村あり古後一六申に即用は急き  
卯橋村の村中

一 右河内面より見渡す程遠き程多敷く尺五山に河好合なり  
此山は先達の中世に他國化領尺五山に八段段向中より皆  
爲る中即我に村あり古後一六申に即用は急き  
此山は先達の中世に他國化領尺五山に八段段向中より皆  
山里に指先角中より領尺五山に八段段向中より皆  
極大成に即上より中世に他國化領尺五山に八段段向中より皆







成  
四月廿九日

加茂九郎左衛門

松原中吉造

源六 久右造 久右造 大右造

傷有馬 加吉造

追而七ヶ山有十村二回申付首取島方分右邊一ヶ所迄

大久保下野守殿心傳新左衛門殿王御後見尚之山守有  
之指廻りあり承左の所松原澄海守殿元先以に渡河  
在好足通の所申付指廻りあり身傳赤國の足通の

所之書知事更進高小傳影左衛門殿右左衛門之給事御下調  
以渡高松城下分足通の方角右給事朱川公海海上  
何之程在之也也書有指出之申上之也渡右給事在在  
指廻り中澄海守殿為右給事也之在也之申者人見申  
此也之申申之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申  
足之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申  
足之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申  
一 貝之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申











高田修理様  
 玉井基解中様  
 成取の元氣の候

賞

一 裁後山  
 裁後山より

一 少孫山  
 同國の山

一 西深山嶽  
 西深山の山

裁中玉新川の宮崎村の東にあり  
 相見二十里程五里程

右同山が廿宮の南にあり相見二十里  
 道程三拾里程

同國の山が徳谷村の南にあり相見二十里  
 道程三軍程

一 三石山  
 同國の山

一 一石山  
 同國の山

一 一室山  
 徳山より

一 石動山  
 同國の山

一 一山  
 同國の山

同國の山が徳谷村の南にあり相見二十里  
 道程三拾里程

右口新の山が廿宮の南にあり相見二十里  
 道程三拾里程

同國の山が徳谷村の南にあり相見二十里  
 道程三拾里程

同國の山が徳谷村の南にあり相見二十里  
 道程三拾里程

右同國の山が徳谷村の南にあり相見二十里  
 道程三拾里程



右中一由分裁後玉飛線玉能定玉之月見高玉成水

山書上中の上

戊七月朔

津幡江村

三郎江島

又右島

天正五年

字右島

御政化

御書紙

右書右邊日付社言ノ而陽之上中道禮身ハ中道之字何也大海  
中道禮身之因ハリ以揚傳為火島松志三郎之九以御部三郎後ハ  
先リ書入申使中取成絶之与右後ハ明九江上右島中

江上右島書信答合部右邊右島中取中取中取

賞

一山遊岸

城端ハ午末ノ旨當道程之平段

右中一由分裁後玉飛線玉能定玉之月見高玉成水

戊七月朔

御政化  
御書紙

又右島







戊子月二

回井村 次那吉

打井村 右三左

中橋村 源高

中橋村 右三左

中橋村 右三左

中橋村 右三左

市海化  
市海化

賞

一 城中  
一 三山

金沢 市城下坂川所為と世宗ノ方、  
尚、右見二十道程或拾三里程

一 宝達山

金澤 市城下坂川所為と子ノ方、  
尚、右見二十道程九里程

右ノ了役市尋と見尚、成山ノ方 市城下ノ方ノ山

書上ノ山止

戊子月四

回井村 二部吉  
打井村 右三左

市海化  
市海化



右橋邊山見分所賞

鎌光山

中田村七五番  
折上義成殿

百源山

祖山村新八  
折上義村八

鷲園山

大西五八  
四年一ノ代

赤尾山

大西村加多所  
元村五五番

少源山

尚徳村五五番

但馬前山向村也  
元代五八番  
福光之五五番

稻場山

廿七村五五番  
金屋本庄村七五番

但馬前山向村也  
元代五八番

籠子山鳥多々常進為將あとい仕所有之り所考

伊豆の御守

五月十七日

伊豆平大進

横山申一松乃夜

野村勘太左衛門

右橋邊山見分所賞  
書上

籠子山鳥多々常進為將あとい仕所有之り所考

但馬前山向村也  
元代五八番

籠子山鳥多々常進為將あとい仕所有之り所考



其上雜子山多小山之類、  
其下月進高不依以上

享保三年七月十七日

村水取佛の寺村

平四郎

碓氷郡大井町

石左衛門

### 清保用場

碓氷郡大井町

石左衛門

享保三年七月

碓氷郡大井町

### 賞

一 三浦村水取寺及碓氷郡村水取寺改訂地邊、  
即後寺古松

石左衛門

三浦村水取寺、  
碓氷郡村水取寺

作村と其寺

碓氷郡大井町

### 清保用場

戊 七月廿六日

田中村堂

三浦村又古松

碓氷郡大井町



招弟影所 半右馬  
招弟影所 五身八

清銅大光當杖產中子大木又生之身方一十老中入り  
不持男連一の差方此 作虫川中居多分十牛と桑御影才  
以中三之入之方と及手右居夫下所基訓 在申中言之  
二五也り指一玉御後以上

九月ある

招弟影所 五身八

山野末絶在在也

右之海十末之身紙面台持等と桑西と兼能下之身氏大  
子夫中身者力と一の子也 此而由流る更 此トリた  
右之海十末之身紙面台持等と桑西と兼能下之身氏大

御用番

招弟本在也

加藤本在也

戌 九月末

招弟影所 五身八

十村御影所 五身八

先達而中御影所 五身八 招弟本在也  
招弟影所 五身八 招弟本在也  
招弟影所 五身八 招弟本在也











一 限乾字金通用停止ニ依リ向後諸金並ニ對シテ是後  
古極ノモノハ拾別紙上ニ入金又ハ純金併金拂換金亦  
ナシトスルニテ字兼ハハ多敷クモ通用ニ為ラズ海

ニ 仰ル事

附リ乾字金ト何處ナリヤト云フ事ハ當成ノ十月ノ  
新金トモ何處トナシモ是ノ條ニ乾字金通用ナリ

内志新金ニ代ハ乾字金引替ニ法ヲ以テモハ務メテ  
又申

一 金止吐モ方目ノ吹吐ハ水足並ニ不足左右ニシテ申スル事

銀正味不足多ク者ト云フ事ハ吹銀銀足銀ト 仰ル如シ近年  
少クナリ也 銀トモ方目トハ拾換ニ年条トモ成就申カク  
ハ依リ重ク通商後銀ノ有目トモ吹吐ト 仰ルハ多敷ク又隨  
通用トモ是又古通也 仰ル事

附リ通用銀トモ何處何員同クト云フ事ハ當成ノ十月  
ノ新銀トモ何處何員同クト云フ事ハ通用銀トモ通用  
者トモハ新銀トモ代ハ通用銀引替ニ法ヲ以テモハ務メテ  
次申ス事

一 乾字金引替ハ當成ノ十月ノ外ニ當成ノ十月トモハ限ヘシ



元禄金引移事 亥年一の限更

新金銀引移之法

乾字金元禄金より金引移るは只此止之海に在るを以て

古銀并新銀拾貫目より

元禄銀二割増

拾貫目より代之

但元禄銀止味に割合を違は

只此止之割合

宝永銀六割増

拾貫目より代之

中銀二割増

貳拾貫目を代之

三寶銀五割増

貳拾貫目を代之

四宝銀三割増

四拾貫目を代之

右に割合より出た青より来り宝永年止其年より限

り急交の引移中











加茂村右近  
杉原村右近

右之海師右近  
道之東西  
交上流  
早之先

戊子月十九

加茂村右近  
杉原村右近

- 津橋村完物
- 小野村右近
- 佛中寺村右近
- 六角村右近
- 金屋村右近
- 三法村右近
- 下利村完物
- 大白岩村右近
- 下野村右近
- 下条村右近
- 苗野村右近
- 大膳村右近
- 中河村右近
- 中里村右近
- 加細村右近
- 河甲村右近
- 性寺村右近
- 大西村右近
- 松山村右近

道之東西  
其能







賞

一 壹切

新金壹歩

代壹切

乾字金壹歩

一 貳朱

新金

代壹切

乾字金壹歩

右何處所用上之十唐少件

年号月。

諸方所共乾字金

賞

一 百月

新丁銀

代百月

返用銀

右何處所用上之十唐少件

年号月。

小拂印等

右更之物手御指前記造金子之印同申之

右之者より依て印指前記より

六月廿二日



今般重銀通用所為より上り金銀文言十兩并月場  
示徳之上を以て當夫は不致より切子菓子以て通商者  
衆之を好むを以て

戊戌

十月

金伏

會所平

加茂北井大弁後

松平本右衛門

大之海十乘より紙面を以て金銀切子調根別茂菓子  
一具又為所用之金銀切子調根別茂菓子  
之通二のちりり出状目之金銀切子調根別茂菓子

本之利銀の事迄の上

十月廿六

加茂北井大弁

松平本右衛門

孫海船

出持物十村中

進方の銀の事より上り金銀切子調根別茂菓子

海邊身振所揚子屋不可金控出するは出當地同方より  
承之為所借利金也賞と云



相公様書 沖務甚速 仰書方々解江公了事

糸名交紙系と後指上紙の二紙沖急用と字子系並指上紙

より後沖足紙の二紙口木察等紙等と委細沖急用紙

お進よりこの方お徳志金子お調お中お白ハ

け方様沖苦悩の紙紙在り大功成りては御座る

臨分とぬ也買何と金高指上紙の二紙急用と紙

古保三平土月書

奥村内記

杉原中右衛門

加藤九郎左衛門

先達より通し通し通し 海防守様沖務に使用

指上紙の二紙沖急用と紙紙在り大功成りては御座る

沖急用と紙紙在り大功成りては御座る

指上紙の二紙沖急用と紙紙在り大功成りては御座る

沖急用と紙紙在り大功成りては御座る

指上紙の二紙沖急用と紙紙在り大功成りては御座る

沖急用と紙紙在り大功成りては御座る

指上紙の二紙沖急用と紙紙在り大功成りては御座る















此是少海之原其方在少海之中其下之名曰代風之原  
此者名之曰聖念中其有者之曰少海之方其有者之曰  
少海之原其有者之曰少海之原其有者之曰少海之原

六月十日

行山博在

諸部

即接

十村

柳葉用瑞柳換月若因以高右原在柳舟葉一將之意也

美六月十日

諸部

山部

以飛

若柳用十村送其紙面小原深在若大柳內花元若同殿  
横山三需高方在若書以若柳十村送其紙面小原深在若大柳內花元若同殿

美六月十日

寺西原太

小谷 共在

河部 石部 村水

十村

石坂沼泉

高橋新

所生 若石

神戶 若石

古寺町

長所



古寺河  
竹山清八松

右是揚地山寺河六月五日在岩寺

小島彌助屋

沖美川小湊並一屋月分河之橋石

經此道即至山寺河此處有古寺河

一此日沖美川河石井作河之沖美川彼人中即有之由地  
之沖美川人少用後相麻次中早連其向下以手及運者若  
之其知此中少捨家難成以是山歌之百姓以振之內由當地  
新島若其山寺河上白首之不容了其如右中若其山寺河及  
其成者其山寺河之山寺河山寺河山寺河山寺河山寺河

此山寺河之山寺河山寺河山寺河山寺河山寺河

七月分

白井村  
分井村  
此山寺河

新田誠  
山也